

The Party  
1975 / 2026

1975年、今井祝雄、植松奎二、村岡三郎による《The Party》は、三人の心臓音を録音した音源と、メトロノームが刻むマン・レイ《破壊されざるオブジェ》のレプリカによって構成された、複数のリズムによる共存として発表された。その出発点には、行き先未定の共同行為への信頼があった。完成形や結論を先取りすることなく、まず集い、共に行動してみること。その態度そのものが、空間をひらいていったと言えるだろう。

心臓音は、一人ひとりに固有で、同じものは二つとない自画像のような存在である。同時にそれは、自分を生かしているにもかかわらず、自らの意志では制御することのできない、外部としてのリズムでもある。《The Party》が提示したのは、意味や象徴を読み解くための装置ではなく、そうした制御不能なリズムに身を置き、「共にある」という状況を引き受ける行為そのものだった。

2026年の再演において、村岡三郎は「不在としての参加者」となる。その不在は欠落ではなく、時間の経過や関係性の変化を可視化するかたちで、この場に関わり続けている。会場の四隅に配置された三つのスピーカーと一台のメトロノームは空間の中心へ向けられ、来場者はそのあいだを巡りながら、複数の時間が重なる拍動を聴く。

本作が目指すのは、過去をそのまま呼び戻すことではない。一つの試みとして、実際に場をつくり、その中に身を置きながら考えてみること—その未完の思考に加わることが、いまという時代の《The Party》を成立させる。

大槻晃実 (ゲストキュレーター、芦屋市立美術館学芸員)

# The Party

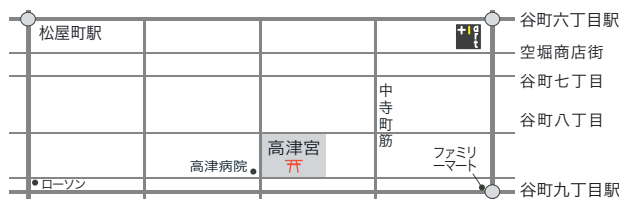
## 1975 / 2026

今井祝雄 + 植松奎二 + 村岡三郎  
Norio Imai, Keiji Uematsu, Saburo Muraoka

6/10(水)–21(日) pm12–7 休廊: 6/14(日)・15(月)・16(火)

オープニング 6/06(土) アーティストトーク >

- 話者: 今井祝雄、植松奎二、藤本由紀夫(音響技術協力)
- 司会: 大槻晃実
- 開場 13:30 ■開演 14:00 ■参加費: 500円 ■定員: 50名(要予約)
- 会場: 高津宮境内「富亭」 大阪市中央区高津 1-1-29  
谷町九丁目駅から徒歩4分、+lart から徒歩15分



\*イベント当日は+lartの休廊日ですが、イベント終了後臨時開廊します



今井祝雄、植松奎二、村岡三郎の三人の心臓音とマン・レイのメトロノーム作品《破壊されざるオブジェ》のイメージが刻むリズムによる音のインスタレーション作品「The Party」は、1975年に神奈川県と京都で開催されました。それから約半世紀を経た2026年に、他界した村岡三郎以外のメンバーが集まり、「The Party 1975/2026」が大阪で開催されることになりました。音響技術協力として藤本由紀夫が加わった今回の「The Party」は1975年の単なる再現ではありません。1975年の心臓音と現代のテクノロジーによってチューンアップされた心臓音が会場に流れる本展は「21世紀のThe Party」です。

尚、本展の開催に先立ち、6月6日(土)には今井祝雄、植松奎二、藤本由紀夫によるトークを高津宮境内にある『富亭』で開催します。また本展を機して限定ボックスセットを販売します。

+lart 大阪市中央区谷町6-4-40 TEL 06-7712-6685  
大阪メトロ谷町線・長堀鶴見緑地線 谷町六丁目駅④徒歩1分  
④出口右手の石段を下り 小路を左折

